

琵琶湖博物館 フィールドレポーター

掲 示 板

2026年度第1号 通巻第107号 2026年 9月 26日



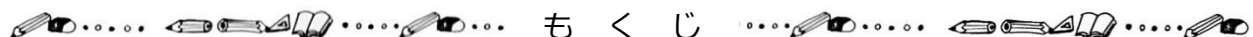
クズの花

ごあいさつ

今年度から新しくフィールドレポーター担当になりました学芸員の中村久美子です。博物館での専門は博物館学で、未就学児を対象とした博物館体験をテーマに活動、研究しています。はしかけグループの「ちこあそ」では、未就学児対象に毎月屋外展示で自然体験プログラムを実施しています。また、元々は小型哺乳類（特にカヤネズミ）の景観生態学の研究をしていました。好きな動物はアフリカゾウです。

2011年から琵琶湖博物館で勤務していますが、最初のお仕事がフィールドレポーターでした。あれから15年もたちましたが、またフィールドレポータースタッフの皆さんと活動できることを懐かしく、楽しませていただいています。月2回の定例会では、たくさんのお話が飛び交い、毎回新しい気づきがあります。フィールドレポーターの運営をしていく中で、とても大切な時間だと思います。この時間があるからこそ、フィールドレポーターの活動が長く続いているのだと感じます。今年、琵琶湖博物館は開館30周年を迎えます。開館前から、市民参加型調査はいくつか実施されていましたが、正式にフィールドレポーター制度が始まったのは、開館翌年の1997年です。30年経った今、改めて市民科学の可能性に注目が集まっています。学芸員一人ができることは限られていますが、多くの市民と一緒にできることは無限大です。これからもフィールドレポーターの皆さんと、たくさんの発見をしていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

主任学芸員 中村久美子



も く じ

	巻頭言	中村久美子	P1	5	電線にウグイス	ファーブルおばさん	P7
1	交流会 開催	FR スタッフ	P2	6	広島城のタンポポ	かえで	P8
2	学芸員紹介		P4	7	トッキョキョカキョク	湖西の住人	P9
3	今年もコウノトリが飛来しました	山岡辰朗	P6	8	今年のびわ博フェスで	FR スタッフ	P9
4	じゅうけんきゅうはセミ	はるちゃん	P6	9	活動報告・活動予定		P10

1. フィールドレポーター交流会 開催

交流会は、普段なかなか顔を合わせる機会がないレポーターが年に1回、博物館に集まって親交をはかる行事です。調査報告を聞いたり、それぞれが見聞きしたことをみんなに伝えたり、疑問に思うことを学芸員さんに質問したりします。各地域のいろいろな様子がわかって面白いですし、滋賀県の広さをあらためて感じます。今年の交流会は、5月30日（土）に博物館のC展示室にある「みんなでつくりフィールド情報」というコーナーで行なわれ、25名の参加がありました。

今年度フィールドレポーター担当学芸員の中村久美子さんの開会挨拶に続き、2025年に行なった2つの調査について、結果報告と質疑応答（意見交換）がありました。

《タンポポ調査》



外来種（雑種を含む）は琵琶湖周辺の平地に多いが、外来種よりも雑種の方が多かったこと。シロバナタンポポは湖南から甲賀にかけての地域と、高島市の平地で、分布頻度が高かったこと。カンサイタンポポとセイタカタンポポの開花時期は、春先の気温と冬の日照時間が関係していること。これらを中心に、調査結果の説明がありました。

質疑応答では、「大型雑種はどんな花で、どこで見られたか」について意見を交換した他、甲賀市に生育するキビシロタンポポとイガウスギタンポポとの関係についての質問が出ました。

調査担当学芸員の芦谷美奈子さんは、「タンポポ調査は“誰でもどこでも出来て環境がわかる”という意義を持ち、半世紀にわたる長い歴史の中でタンポポが解明されてきた。だが、雑種の問題が出てきて、今は正体を見極めるのが難しい」と、講評を述べられました。

（前田雅子 文）



《水辺の魅力調査》

今回の「水辺の魅力調査」を担当している杉田薫氏によって、調査の中間報告がなされました。「水辺の管理についてはいろいろなかたちがみられた。以前は地区の住民が川や溝の掃除をする“町内会の行事”であったが、今は担い手や環境等の変化に伴い、水辺の管理の仕方が多様化している」との説明に、個人的に興味を惹かれました。質疑応答では、「調査票の自由記述で印象に残ったコメントは？」の質問に対し、「人によって湖辺の概念は違う。琵琶湖の近くに住んでいる

人と、内陸で琵琶湖から離れたところに住んでいる人では、意識がかなり違う」と、返答されました。この調査の詳しい結果報告は、もうしばらくお待ちください。

調査担当の楊 平 学芸員は、「若い人にも水辺と関わってほしい。水辺でいろいろな経験をすることが、水辺を守ることにつながる。継続すること、関わっていくことが大事」と、講評されました。

（前田 文）

次に、この5月に始まった「滋賀の漬け物調査」について、調査担当スタッフから案内と説明が



ありました。

《漬物は好きですか？ 漬物を食べていますか？》



2026年度第1回フィールドレポーター調査は、滋賀県各地で昔から受け継がれてきた特産の漬物をテーマに取り上げます。漬物は、収穫した野菜を長く保存するための知恵として、かつては各家庭で作られ、日々の食卓に欠かせない存在でした。現在では流通や保存技術が発達し、食生活も大きく変化していますが、地域に根付いた漬物文化はどのように受け継がれているのでしょうか。

滋賀県には、地域ごとの気候や風土を生かした多様な農産物があり、それぞれの土地ならではの漬物が存在します。今回の調査では、県内でどのような漬物が作られているのか、また、その製法や味、食文化が現在も家庭や地域の中で受け継がれているのかを調べます。さらに、近年の食生活の変化による「漬物離れ」にも注目し、現在の販売状況や家庭での入手方法、食べる頻度などについても調査します。これらを通して、滋賀の漬物文化が今後どのように変化し、未来へどのようにつながっていくのかを考えていきたいと思います。



(辻本和史 文)

知っていますか？ 滋賀の漬物



桜漬けとも呼ばれる
日野菜漬け



春の便りの 菜の花漬け



湖南市下田特産
下田ナスの一夜漬け



お馴染みの
梅干し



夏の漬け物
キュウリのどぼ漬け



滋賀は赤カブが多種類
赤カブのぬか漬け



たくあんを塩抜きして煮た
たくあんのぜいたく煮

2. 学芸員さん紹介

琵琶湖博物館の開館から30年になります。長い間お世話になった学芸員さんの定年退職が続いたこともあり、新しく来られた学芸員さんがこのところ急に増えたように思います。この号では、昨年来られた佐藤さんと、今年来られた北野さんを紹介します。どのような研究をされており、どのようなことに興味をお持ちなのか、質問に答える形で自己紹介の文章を書いていただきました。

アンケートでは次の5つをお尋ねしました。

1. 琵琶湖博物館に来られたのはいつですか？ それまでは何をされていましたか？
2. どのような研究をされていますか？ その面白い所や苦労されることを教えてください
3. 趣味や楽しみ、休日にされることは何ですか？
4. ついしてしまう、あるいは気にしてしまう、研究者ならではの職業病がありますか？
5. レポーターの皆さんに、“こんなことに注目して観ると面白いよ！” “こんなことを見たらぜひ教えて！” などのメッセージがありますか？

かのん 佐藤華音さん

〈琵琶湖博物館へは〉 2025年4月に着任しました。それまでは、大学院生でした。現在も、社会人大学院生として同じ研究室に在籍しています。

〈研究分野〉 動物が運ぶタネ(種子散布)の研究をしています。小さい頃から野外で生き物を観察することが好きで、生き物どうしの関わり合いに興味があり、今の研究テーマにたどり着きました。琵琶湖では、水鳥(カモ類)を対象にした研究がしたいと考えています。

〈趣味・休日にすること〉 野鳥をはじめ、野外で生き物を見ることが小さい頃からの趣味です。休日は県内のどこかで生き物を探しています。

〈研究者ならではの職業病〉 野外で鳥や哺乳類のフンを見かけると、どんなものを食べているのか、タネは入っているのか等が気になります。

〈レポーターへのメッセージ〉 冬鳥といわれているカモ類ですが、5月頃まで残っていたり、渡らずに琵琶湖で夏を過ごしたりする個体があります。「カモがいつまで琵琶湖にいるか」注目してみると面白いかもしれません。



ともや 北野智也さん

〈琵琶湖博物館へは〉 今年（2026年）の4月に着任しました。それまでは、岩国徴古館（山口県岩国市）と彦根城博物館（滋賀県彦根市）で学芸員をしていました。

〈研究分野〉 もともと専門として研究していたのは、江戸時代の大坂における砂糖の流通です。1800年頃を境として、オランダや中国からの輸入砂糖から、高松藩などで生産された国産の砂糖に国内需要の中心が転換していくことで流通がどう変化するのか、それに関わる商人たちはどう行動したのかなどを研究していました。国産の流通を促進しようとする勢力とそれを押しとどめようとする勢力とのせめぎ合いが注目ポイントです。「甘いもの好きだし、史料も面白そう」と安易な気持ちで研究をスタートさせましたが、想像以上に史料が難解で、数も少ないという所で大変苦労しました。

現在は心機一転、琵琶湖周辺に群生する葎に着目し、その生産・流通・消費から見える地域の様子やそこに暮らす人びとのありようについて、研究を始めています。

〈趣味・休日にすること〉 これ！！といった趣味がないことが悩みの一つです。休日＝平日（仕事）の準備日という感じで、平日にできない家事等をして過ごすことが多いです。

〈研究者ならではの職業病〉 崩し字で書かれた仮名文字を街中で見かけると、つい読んでしまいます（料理屋さんの看板や暖簾など）。

〈レポーターへのメッセージ〉 現在の日常の暮らしの中には、江戸時代の暮らしに端を発するものがたくさんあります。日頃の当たり前に疑問を持って、ぜひ調べてみてください。

これからご一緒させていただく機会もあるかと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。



掲示板での紹介を快く承諾し、お人柄がにじみ出た文章を書いてくださった佐藤さん、北野さん、大変ありがとうございました。これから教えていただいたり、お世話になったりすることが多々あると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 今年もコウノトリが飛来しました

山岡辰朗

去年より約 1 か月遅く、今年もコウノトリが 5 月 16 日に飛来しました。

大津市の田んぼです。

同じ個体かどうかわかりませんが、元気に田んぼのカエル、ミミズを啄んでいました。

カメラを持ってなかったなので、スマホの撮影となり、不明瞭となりました。



*コウノトリは絶滅危惧種のため、詳しい撮影場所はのせていません。



4. じゅうけんきゅうはセミ

はるちゃん

セミがなく時間を夏休みのじゅうけんきゅうにしようと思っています。家の近くでさいしょになきはじめたのはニイニイゼミで、きゅうにあつくなった 6 月 29 日土曜日でした。小さい声で、ジーーとないていました。でも 7 月になって雨がふると、声が聞こえなくなりました。カナカナ（ヒグラシ）は 7 月 10 日の夕方に、山の方でないていました。クマゼミ（うちではワシワシくんとよぶこともあります）は、7 月 14 日（火）のあさでした。アブラゼミは 7 月 16 日（木）に、なかないけれど、となりの家のかべにとまっていたいました。でも、どのセミも、はじめはなきかたがへたで、わかりにくいです。

5. 電線にウグイス

ファールおばさん

我が家周辺には、毎年ウグイスがやって来ます。春の訪れを感じさせてくれるので、楽しみにしています。今年は例年よりも遅かったですが、それでも 4 月にはきれいな声を聞かせてくれました。

5 月 10 日頃、朝、ゴミを出そうと玄関を出ると、ホーホケキョ！と大きな鳴き声がしました。「ずいぶん大きな声で上手に鳴くなぁ」と思って聞いていたのですが、頭上から聞こえるので、どこで鳴いているのだろうと不思議に思って探すと、なんと、電線にとまっていた。電線にいるその鳥が何度か「ホーホケキョ」と鳴いたので、その個体に間違いありません。

ウグイスは恥ずかしがり屋で、葉っぱに隠れて一声鳴いてはすぐに枝を移ってしまうため、姿をじっくり見せてくれません。飛び立った後に葉が揺れているので、そこにいたことがわかるくらいです。そんな警戒心の強いウグイスが、堂々と電線に止まっていることにびっくりしました。

でも、よくよく考えると、ウグイスではなかったかも知れません。逆光で色はよく見えなかったのですが、ウグイスにしてはやや大きいように思いました。ひょっとして、どこかの家から逃げてきたセキセイインコ？ その可能性が無きにしも非ずです。みなさん、どう思われますか？

鳥類が専門の佐藤学芸員に、コメントをいただきました。

「5 月頃はウグイスの繁殖期になりますので、縄張りを主張するために高い枝の先でさえずっていることがあります。

ふだんはしげみからなかなか出てこないウグイスですが、この時期は少し大胆になるようです。ご覧になった個体も、そのような事例かと思います。」



6. 広島城のタンポポ

かえで

今年の5月17日、広島市に行った時のこと。原爆投下で倒壊した広島城の再建から70年近く経ち、老朽化のために天守閣が取り壊されると聞いて、一目見ておこうとお城を訪ねました。

広い城内に樹木は少なく、芝生と砂利と真砂土の地面が広がっています。その中に黄色い花が所々に見られ、この時期ならブタナかなと思って近づくと、なんとタンポポでした。花の直径は2~3 cm、総苞は黄緑色、外苞は上を向いているので、在来種です。広島県の在来種のことはよく分りませんが、カンサイタンポポ風でした。5、6ヶ所でタンポポを観察しましたが、形態的にはどれもこのタイプで、外来種は見られませんでした。

お城という昔ながらの環境だから、在来種が残っているのでしょうか？ でも、滋賀県ではすでに花の終りの時期になっているのに、滋賀よりも温かい広島市で、この時期に綿毛が1つも見られないのは不思議に思います。

花を2つ送ります。すみませんが、花粉などを見ていただき、何という種類か教えてもらえないでしょうか。

ご質問ありがとうございます。2つの頭花を拝見しました。

まず、総苞に短いトゲがないのでブタナではありませんし、花茎が太くてしっかりしているのでジシバリなどでもありません。タンポポで間違いありません。

また、頭花は小型、小花数は少なく、外苞が内苞の三分の一くらいで短いことから、形態的にはカンサイタンポポと判断されます。けれども、2つの個体ともに、花粉を全くつけていませんでした。つまり、カンサイタンポポの姿をした雑種です。

かえでさんが花の時期で不可解に思われたのは、雑種の可能性を感じ取られたからでしょう。花粉をつけないタイプの雑種であれば、花をティッシュで軽くこすってみるとすぐに分りますね。

(前田雅子)



7. トッキョキョカキョク

湖西の住人

ホトトギスの聞きなしには「テッペンカケタカ（天辺掛けたか）」がありますが、私は「トッキョキョカキョク（特許許可局）」の方がピッタリきます。

今年、ホトトギスの声を各地で聞きました。まず、5月上旬に、自宅近く（山手の住宅地）で何度か聞きました。やや離れた場所にいるのでしょう、声は小さかったですが、独特のさえずりなので（というか、リズムが独特です）すぐにわかりました。

次に、5月23日に福井県勝山市に行った時、山あいの谷間で聞きました。人家からかなり離れていて周囲が静かということもありますが、とても大きな声で、盛んに鳴いていました。自宅周辺では朝か夕方によく聞きますが、この時はお昼の12時近くだったので、こんな時間帯でも鳴くのだと思いました。

そして最後は、5月27日の午前10時ごろ。大津市のびわこ文化公園の林縁部です。山を大規模に切り開いて造った公園ですが、意外に、自然が残っているのだなと思いました。ちなみに、そこは夏にミンミンゼミの鳴き声が聞ける場所です。

8. 今年11月のびわ博フェスで

FRスタッフ

今年も、びわ博フェスが11月14日（土）と11月15日（日）に琵琶湖博物館で開催されます。博物館や地域で活動しているグループが、普段の活動を発表したり、ワークショップを開催したりして、来館者の方々と共に学び合う場です。この日は関西文化の日にあたり、無料で入館できるのも嬉しいことです。（企画展は別途観覧券必要）



この催しでフィールドレポーターは、11月14日（土）の13時30分～15時30分に、「漬物の折りたたみパズル」と「漬物クイズ」のワークショップを行う予定です。「漬物の折りたたみパズル」は、和算のパズルを基にして作製したもので、子どもさんから大人の方まで楽しんでいただけたと思います。

他のグループのワークショップも面白いものがたくさんあると思いますので、時間を作ってぜひお越しください。

掲示板に載せる記事を待っています

「掲示板」は、みなさんが見つけたものや気がついたこと、また、思ったことを投稿して情報を共有し、コミュニケーションをはかるためのツールです。

基本情報（いつ、どこで、何を）があれば、短い文章でも構いませんので、気軽につぶやいてみて下さい。郵送またはメール<freporter@biwahaku.jp>でお送りください。

4月～8月の活動報告

月	日	内 容	参加者	主な議題・活動
4月	5日(日)	定例会	7名	① タンポポ調査のレポーターだよりの印刷・発送 ② 漬物調査の内容の検討
	18日(土)	定例会	6名	① 交流会の内容について ② 漬け物調査に関する最終確認
5月	2日(土)	定例会	7名	① 漬け物調査の調査票セットを印刷・発送 ② 交流会の進行と役割分担、準備物について
	16日(土)	定例会	3名	① 交流会の準備と確認
	30日(土)	交流会	27名	① タンポポ調査、水辺の魅力調査の結果報告 ③ 意見交換と交流 ③ 漬け物調査の説明と試食会
6月	20日(土)	定例会	5名	① 交流会の振り返り ②びわ博フェスへの参加を協議 ② 次号の掲示板記事
7月	4日(土)	定例会	5名	① フィールドレポーター紹介のチラシの改訂 ② びわ博フェスでの内容 ③掲示板の内容について
	18日(土)	定例会	5名	① びわ博フェスのワークショップの内容 ② びわはく GIS でのフィールドレポーターデータ利用
8月	1日(土)	定例会	6名	① びわ博フェスのワークショップについて ②掲示板
	22日(土)	定例会	5名	① 漬物調査のまとめ検討 ②びわ博フェスの計画

9月～11月の活動予定

	日 時	内 容	場 所
9月	5日(土) 13:30～16:00	定例会	交流室
	26日(土) 13:30～16:00	定例会	交流室
10月	3日(土) 13:30～16:00	定例会	交流室
	17日(土) 10:00～12:00	定例会	交流室
11月	7日(土) 13:30～16:00	定例会(ワークショップの準備)	交流室
	14日(土) 10:00～17:00	びわ博フェス(ワークショップ実施)	会議室

定例会は原則として第1、第3土曜に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学也大歓迎です。なお、予定が急に変わることがあります。初めて参加される方は、下記の電話・メールで、フィールドレポーター係までお問い合わせください。

編集後記

10年ぶりに掲示板の担当になりました。その間にデジタル化が進んだだけでなく、AI が色々なところで助けてくれる時代になりました。けれども、人の気づきは、いつの時代も大事でしょう。掲示板は AI なしで作りたいと思っています。(担当 前田)



滋賀県立
琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091
TEL: 077-568-4811 FAX: 077-568-4850
E-mail: freporter@biwahaku.jp